

2021年3月期第1四半期 決算説明会

1. 地域別市場環境と見通しについて
2. 決算の概要

2020年7月27日

 日立建機株式会社

執行役 営業本部長 先崎 正文
執行役 財務本部長 兼CFO 塩嶋 慶一郎



本日はお忙しい中、弊社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

まず初めに、この度の令和2年、7月豪雨により亡くなった方々にお悔やみを申し上げるとともに、大きな被害を受けた皆様にお見舞い申し上げます。

被災地が一日も早く復興することをお祈り申し上げます。

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長
先崎 正文

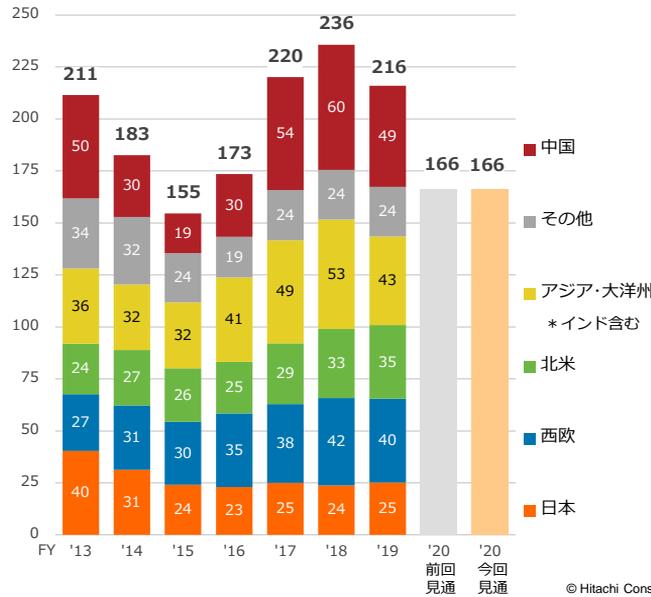
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：20年度 58%（前年比+5%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'19	'20
合計	-8%	-23%
中国	-19%	
ロシア・CIS		+2%
東欧		+2%
アフリカ	-12%	
中東	+10%	
中南米	+13%	
その他	+3%	
アジア	-19%	
インド	-17%	
オセアニア	-22%	
アジア・大洋州	-18%	
北米	+5%	
西欧	-4%	
日本	+5%	

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 3

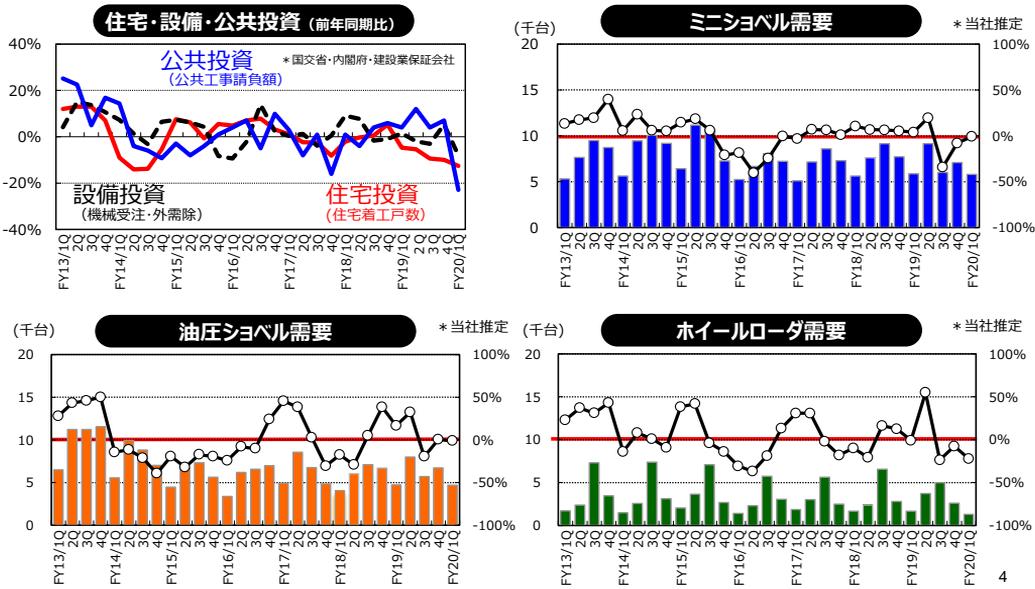
2020年度の需要見通しは、前回同様、16万6千台、前年比23%減を想定致します。

第1四半期は中国で回復が見られましたが、引き続き、世界での新型コロナウイルスの収束時期や、経済環境が不透明な状況は変わらず、通期で前回見通しを据え置き、今回も地域別の見通しは提示致しません。

今後も新型コロナウイルスの今後の状況を注視しながら、各国の経済活動状況を把握し、市場環境の変化に迅速に対応できるよう取り組んでまいります。

次に、各地域毎に第1四半期の結果などを中心にご説明致します。

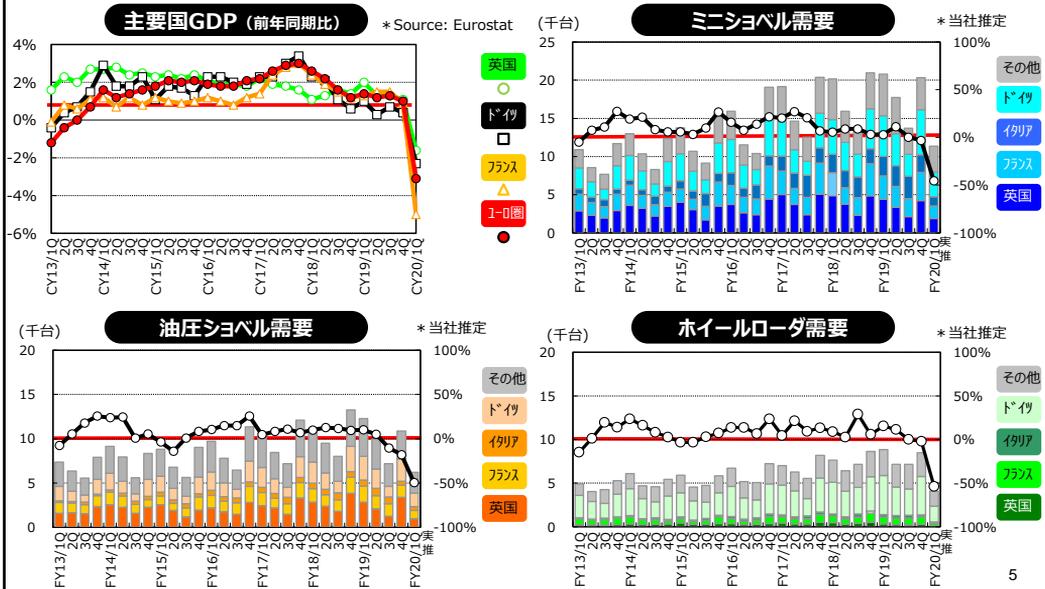
- 住宅投資、公共投資、設備投資共、大きく減少
- 油圧・ミニ需要は微減、WL需要は減少(前年同期比 油圧△1%、ミニ△1%、WL△22%)



左上、第一四半期の公共投資、住宅・設備投資、とも大きく減少致しました。

一方で需要においては、左下の油圧ショベル、右上のミニショベルにおいては前年より微減となりましたが、右下、ホイールローダは前年同期比22%と大きく減少致しました。

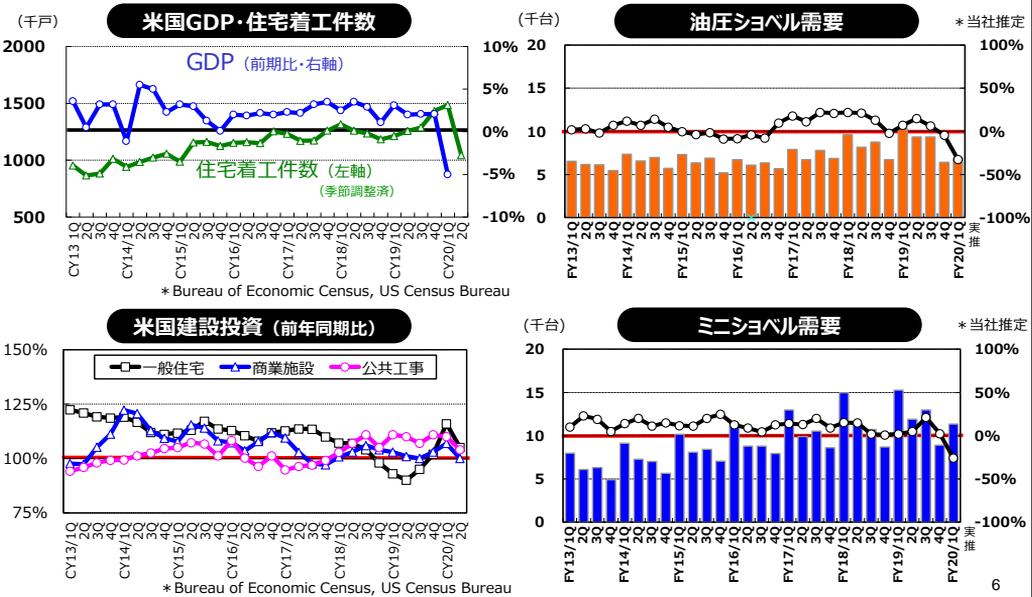
- ユーロ圏全体のGDP成長率は減少
- 油圧・ミニ・WL需要は減少 (前年同期比 油圧△49%、ミニ△45%、WL△54%)



2020年1-3月期のユーロ圏のGDP成長率は、各国大幅減少となっております。

第一四半期の需要においては、新型コロナからの回復が遅れている影響で、油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダの3製品ともに、50%前後の大きな減少となりました。

- 住宅着工件数は減少、建設投資は一般住宅、商業施設、公共工事とも減少。
- 油圧、ミニ共に需要は大幅減少（前年同期比 油圧△33%、ミニ△26%）

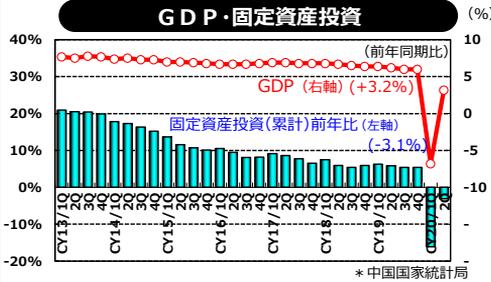


左上のグラフ、住宅着工件数は前年同期比で減少に転じました。

左下の建設投資については、伸び幅は減少しているものの、引き続き前年同期比で増加しております。

一方、第一四半期建設機械需要は新型コロナの影響により、前年同期比で油圧ショベル、ミニショベル、共に3割前後の減少となっておりますが、継続して建設投資などの市況を注視して対応してまいります。

- GDP成長率は3.2%
- 油圧需要増加（前年同期比+45%，外資のみ）

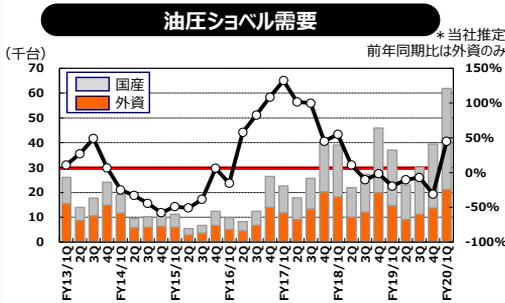
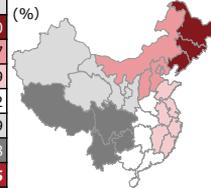


地域別油圧ショベル四半期別前年比

* 外資のみ
* 当社推定

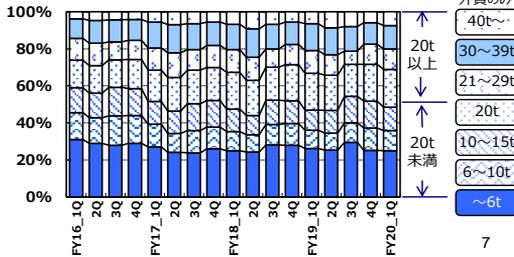
FY19	2Q	3Q	4Q	1Q
東北	-3	+65	+9	+150
華北	-30	-21	-48	+37
華東	-5	-1	-24	+59
華中南	+2	-8	-32	+42
西北	-17	+7	-41	+29
西南	-21	-16	-32	+28
中国全体	-10	-7	-31	+45

(%)



ミニ・油圧ショベル クラス別需要構成比

* 当社推定
外資のみ



4月から6月期のGDP成長率はプラスに転じ3.2%、固定資産投資は大きく落ち込んだ前期よりは回復致しましたが、前年同期比ではマイナス3.1%となりました。

油圧ショベル需要については、第1四半期の国産機含めた全需要で前年同期比67%の増加です。

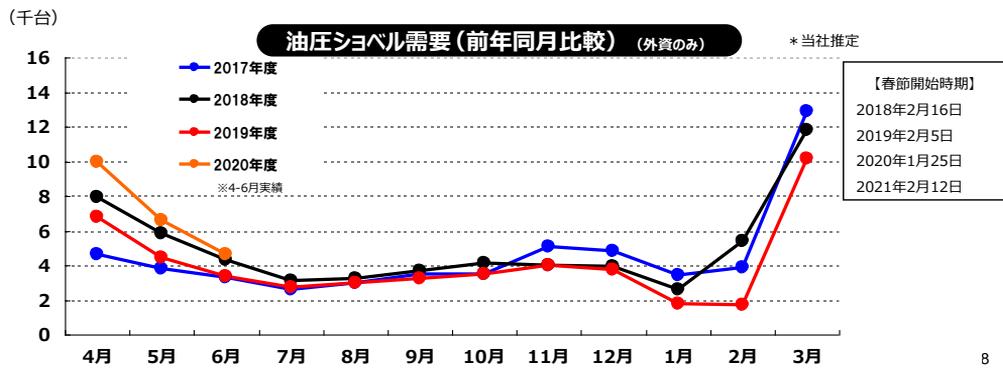
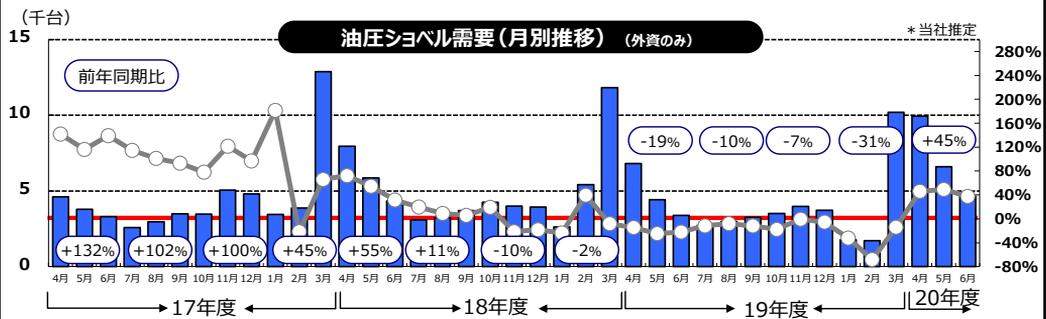
内訳として国産は82%の増加、外資は45%の増加となりました。

地域別の需要やクラス別需要構成比は、資料の右側をご参照下さい。

補足：中国市場

HITACHI

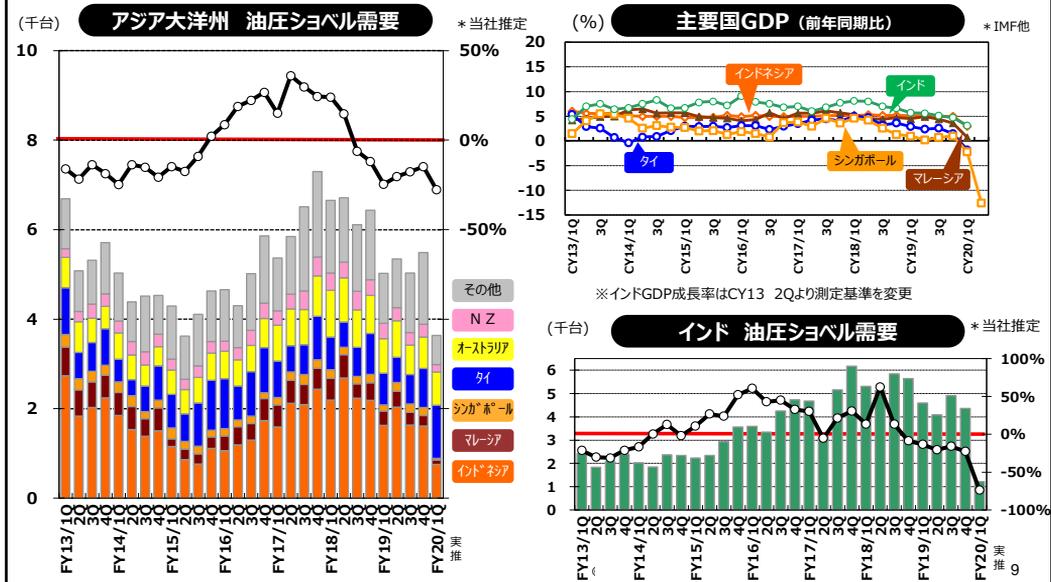
Reliable solutions



上側グラフの、外資のみの月別油圧ショベル需要推移において、新型コロナウイルスの影響により春節商戦が後ろ倒しになり、20年度第一四半期で前年同期比45%の増加となりました。

6月はほぼ例年通りの需要環境に落ち着いた、と考えております。

- アジア大洋州の油圧需要は全体では前年同期比28%減
- インドの油圧需要は前年同期比74%減



左側グラフの、アジア・大洋州の油圧ショベルの需要につきましては、全体で前年同期比28%減少となりました。

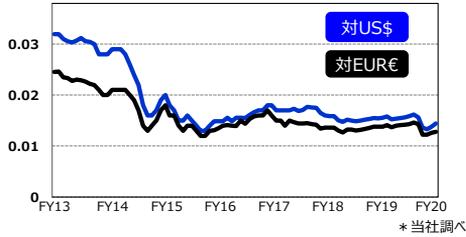
但し、国毎の需要では、タイは政府による、インフラプロジェクトが活況なことにより大幅な増加となり、オーストラリアでは新型コロナの影響が比較的少なかったことで微減です。

一方、インドネシアでは新型コロナやコモディティ価格の低下を受けて大幅減となるなど、国により状況が異なる結果となりました。また、2020年度より一部の国において中国メーカーが統計に新たに加わったこともあって、減少幅が縮みました。

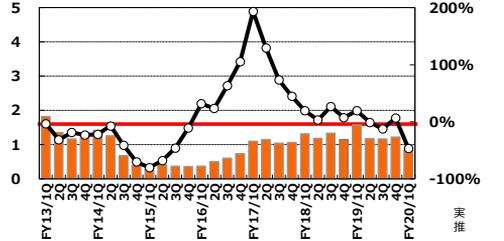
右下グラフの、インドの油圧ショベル需要は、新型コロナによるロックダウン等が大きく影響し、前年同期比74%減少となりました。

- ロシアの油圧需要は前年同期比47%減
- 中東の油圧需要は前年同期比35%減少に転じている

ルーブル為替推移



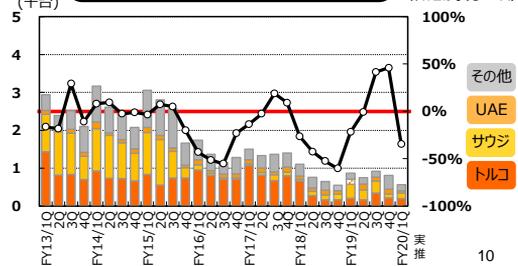
ロシア 油圧ショベル需要



原油・天然ガス価格推移



中東 油圧ショベル需要

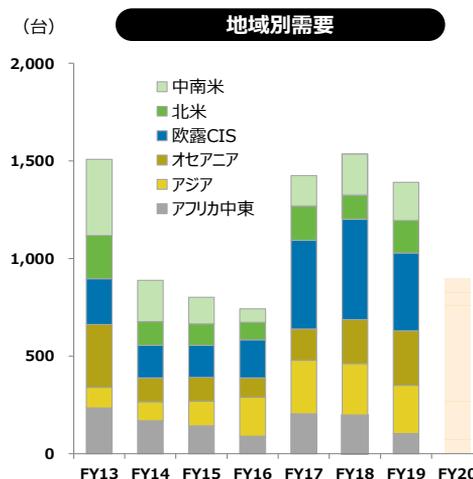
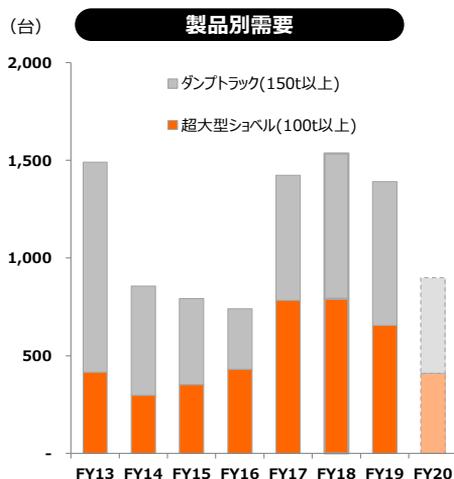


右上グラフの、ロシアの油圧ショベルの需要においては、新型コロナウイルスの影響は比較的軽微であったものの、原油価格下落による影響等もあり、前年同期比47%減少です。

右下グラフの、中東の油圧ショベルの需要も、前年同期比35%の減少で、台数規模も低いレベルで推移しております。

- COVID-19感染拡大のマイニング需要へ与える影響度はいまだ不透明。
- 一般炭価格の下落による中小規模鉱山・コントラクタ向け需要の減少、大手鉱山各社の設備投資抑制による需要の減少を懸念。年度見通しは△35%を据え置く。

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



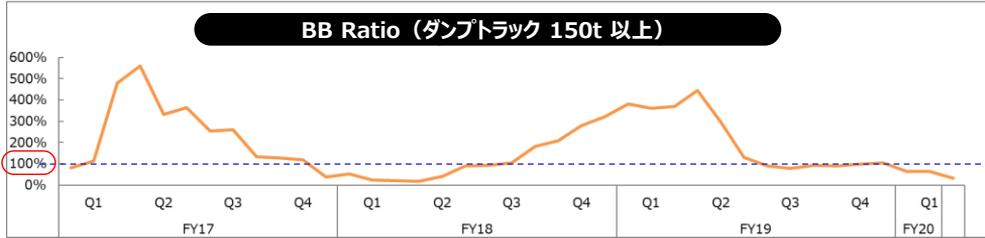
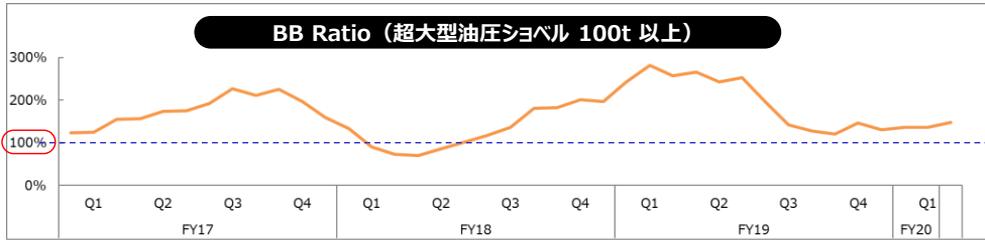
※当社調べ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 11

新型コロナ感染拡大の、マイニング需要へ与える影響度は、いまだ不透明であります。

新型コロナに加え、一般炭価格下落による、インドネシア、ロシアでの中小規模鉱山およびコントラクタ向けの需要の減少、また、大手鉱山各社の設備投資抑制により、マイニング需要全体がさらに減少することを懸念しています。

このため、年度見通しは前年比マイナス35%を据え置き、今後も需要動向を注視しながら、販売、生産体制を調整していきます。



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
 当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

超大型ショベルは各クラスで100%以上を維持しています。

ダンプトラックは新型コロナの影響により、大手鉱山各社では設備投資計画の見直し、および抑制を行っており、商談延期、中止が発生しております。

結果、新規受注も減少し100%を下回っています。

地域	市場の状況
日本	1Q実績はほぼ前年並みだったが、今後の景気不透明感から先行き懸念あり
西欧	新型コロナによる各国規制は緩和傾向も、今後の景気不透明感から先行き懸念あり
中国	春節明け商戦はFY20へ一部後ろ倒しあり、需要は回復し通常的环境に戻っている
北米	第二波による影響懸念と今後の景気不透明感から先行き不安あり
アジア	国により状況ばらつきがあるが、全体として新型コロナの影響継続、インドネシアではコモディティ価格低迷もあり、今後の先行き懸念あり
インド	一部都市では再度ロックダウンあり、新型コロナ長期化により今後の景気不透明感から先行き懸念あり
オセアニア	一般建機は徐々に回復の見込みであるが、マイニングは不透明感が高まっている
全体	1Qは想定範囲内の推移、年度内にはプラス転換しないと想定 FY20見通しYoY▲23%（上期：▲25%、下期：▲20%）

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 13

2020年度の主要市場の見方を纏めております。

日本は第1四半期の結果はほぼ前年並みでしたが、新型コロナの第二波、その影響による景気不透明感から先行きは懸念されます。

また欧米は規制緩和傾向も、第二波による経済への影響を懸念せざるを得ません。

一方、中国では春節が数週間遅れた形で市場が動き出し、いち早く回復。

例年並みの需要環境に戻っています。

オセアニア市場では一般建機は徐々に回復の見込みではありますが、マイニングは不透明感が高まっております。

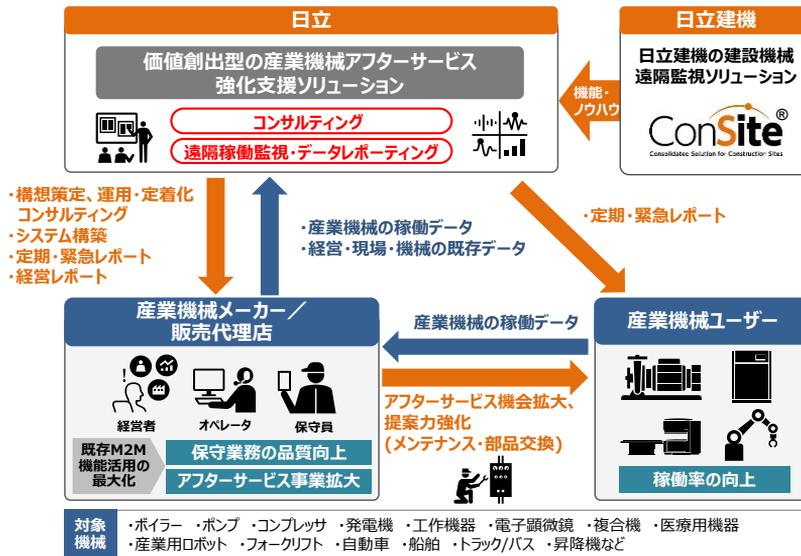
全体としては、新型コロナ感染影響の長期化により、年度内にプラスには転じないと想定しております。

トピック : ConSite®の独自の知見やノウハウを日立に共有

HITACHI

Reliable solutions

- ConSite®の知見・ノウハウを共有、日立のLumada事業に貢献
- 産業機械向けアフターサービス強化支援ソリューションを10月から提供



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 14

コンサイトに関するご紹介です。

当社の建設機械に対する、遠隔監視サービスソリューション:コンサイトの独自の知見やノウハウを、日立製作所と共有致しました。

日立製作所はコンサイトの知見・ノウハウを活用し、建設機械業界以外の産業機械メーカーに、アフターサービス強化支援ソリューションを提供する予定です。

トピック：超大型油圧ショベルの自律運転実証実験を開始

HITACHI

Reliable solutions

- オーストラリアの鉱山で2021年度から開始
- 遠隔操作に関する長年の研究開発成果を礎として、ユーザーニーズに対応
- EX-7シリーズに後付可能、お客さまの保有機を有効活用



実証実験で使用予定の超大型油圧ショベルEX3600-7 (右)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 15

超大型油圧ショベルの自律運転に向けた実証試験を、オーストラリアの鉱山で2021年度から開始致します。

弊社では、1992年に雲仙普賢岳の噴火災害復旧工事で油圧ショベルの遠隔操作を行い、2013年には、業界に先駆けて、インターネット回線を介して、800km離れた場所から油圧ショベルを遠隔操作するなど、長距離遠隔操作の研究開発を進めてまいりました。

今回、長年の研究開発成果を礎として、ユーザーニーズに対応していきます。

また、自律運転機能はEX7型シリーズに後付できる仕様とし、お客さまが保有する現行機を有効活用していただく事を想定しております。

トピック：アフターサービス用部品のブランド区分をグローバルで統一

HITACHI

Reliable solutions

- アフターサービス用部品の3つのブランド区分を整理
- メーカーとしての品質保証を付けてグローバルに供給
- お客様は、保有機械の耐用年数や用途、予算に応じた部品の選択が可能に

	ブランド	特長	保証
1	純正部品 Hitachi Construction Machinery GENUINE PARTS	新車使用部品と同じ	12カ月保証
2	認定サプライヤー 生産部品 Hitachi Construction Machinery SELECTED PARTS	・バケット部品などの消耗品 ・純正部品と互換性を持たせ サービス専用に低価格で提供	12カ月保証 同純正部品
3	再生部品 Hitachi Construction Machinery REMANUFACTURED	・シリンダやモーターなどの油圧機器 ・部品再生工場で分解・整備し、 短納期、低価格で提供	新品同等の 機能を保証

※2021年1月より
上記ロゴのラベルに変更



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 16

アフターサービス用部品の3つのブランド区分、即ち、「純正部品」、認定サプライヤーが生産する「SELECTED PARTS」、「再生部品」に整理致しました。

メーカーとして品質保証を付けて、グローバルでの供給体制を確立。

お客様には、機械の耐用年数や用途、予算に応じてサービス部品をこれら3つのブランドから選択いただくことができます。

2021年3月期第1四半期 決算説明

執行役 財務本部長 兼CFO
塩嶋 慶一郎

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期におけるCOVID-19の影響や為替円高影響△85億円により、売上収益は前年同期比27%減収、調整後営業利益は87%減益

(単位：億円)

	20年度 1Q	19年度 1Q	前年同期比 増減率
売上収益	1,702	2,347	△27%
調整後営業利益 *1	(1.7%) 29	(9.8%) 229	△87%
営業利益	(1.5%) 25	(10.1%) 237	△89%
税引前四半期利益	(1.1%) 18	(9.2%) 216	△92%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(0.1%) 2	(5.8%) 136	△99%
EBIT *2	(1.6%) 27	(9.7%) 228	△88%
為替			
アメリカドル	107.6	109.9	△2.3
ユーロ	118.5	123.5	△5.0
中国元	15.2	16.1	△0.9
オーストラリアドル	70.7	76.9	△6.3

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 18

20年度第1四半期 累計期間の売上収益は、新型コロナ、円高の影響が大きく、前年同期比27%減の1,702億円、

調整後営業利益は、前年同期比87%減の29億円で 利益率1.7%、

営業利益は25億円で利益率1.5%でした。

親会社株主帰属の四半期利益は、前年同期比99%減の2億円でした。

尚、第1四半期 累計期間の為替レートは、前年同期比で米ドルが2.3円の円高、ユーロは5.0円、元は0.9円、オーストラリアドルも6.3円の大幅な円高でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中近東を除き各地域で前年同期比減収となり、連結合計では△645億円の大幅減収

(単位：億円)

	20年度 1Q		19年度 1Q		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	399	23%	409	17%	△ 9	△2%
アジア	92	5%	167	7%	△ 75	△45%
インド	48	3%	134	6%	△ 86	△64%
オセアニア	331	19%	380	16%	△ 49	△13%
欧州	135	8%	282	12%	△ 147	△52%
北米	279	16%	471	20%	△ 192	△41%
中南米	28	2%	38	2%	△ 9	△25%
ロシアCIS	43	3%	101	4%	△ 57	△57%
中東	33	2%	17	1%	16	95%
アフリカ	62	4%	83	4%	△ 21	△25%
中国	251	15%	265	11%	△ 14	△5%
合計	1,702	100%	2,347	100%	△ 645	△27%
海外売上収益比率	77%		83%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 19

日本は、399億円と、前年同期比2%の減収となりました。

海外でも、中近東を除いた各地域で前年同期比減収となりました。

特に北米、欧州、並びに、アジア、インドで、新型コロナウイルスによるロックダウンの影響が大きく、円高影響も重なり、大幅な減収となりました。

中国、オセアニアにおいては他地域と比較して、早めに新型コロナウイルスが収束、ロックダウン解除が実行されたものの、いずれも前年同期比で減収となりました。

結果、海外売上収益比率は、前年同期比6ポイント減の77%となりました。

尚、前年同期比で売上収益は645億円減少した1,702億円でしたが、為替円高影響にて85億の減収、現地通貨ベースの物量では561億の減収でした。

マイニング売上収益推移

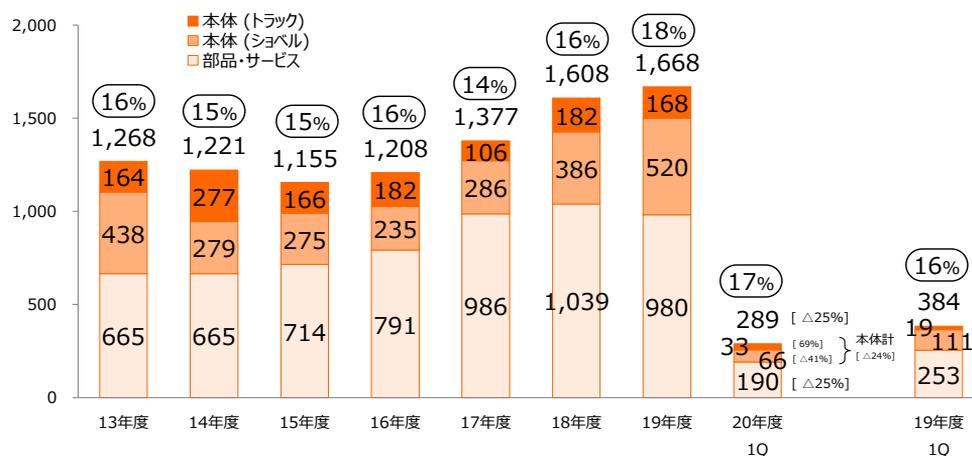
HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、為替円高影響△30億円もあり、前年同期比25%減の289億円

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年比 伸び率

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 20

当20年度 第1四半期 累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通り289億円と、為替円高影響もあり、前年同期比25%の減収でした。

その内訳は、本体売上が24%の減収で、トラック本体がオセアニア地域の貢献で69%と大幅増加したものの、ショベル本体は当第1四半期の納入案件が少なく41%の減収でした。

一方、マイニング部品サービスは前年同期比25%の減収となりました。

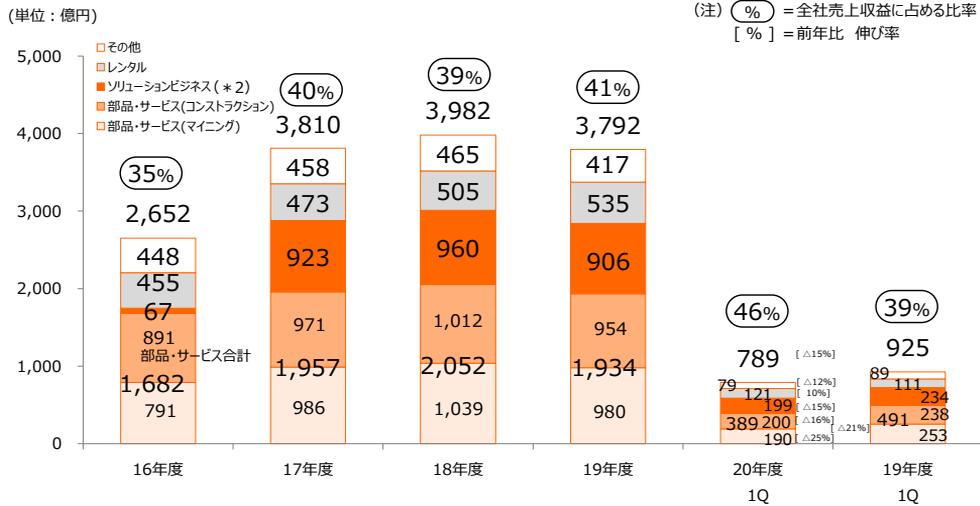
尚、地域別実績の詳細は、末尾 P.32の参考資料2に掲載しておりますので、ご参照下さい。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、レンタル事業が前年同期比10%増加となったが、合計では前年同期比15%減収の789億円



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 21

右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当第1四半期 累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通り、前年同期比15%減の789億円でした。

為替円高影響を5%相当の減収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年同期比 10%減益でした。

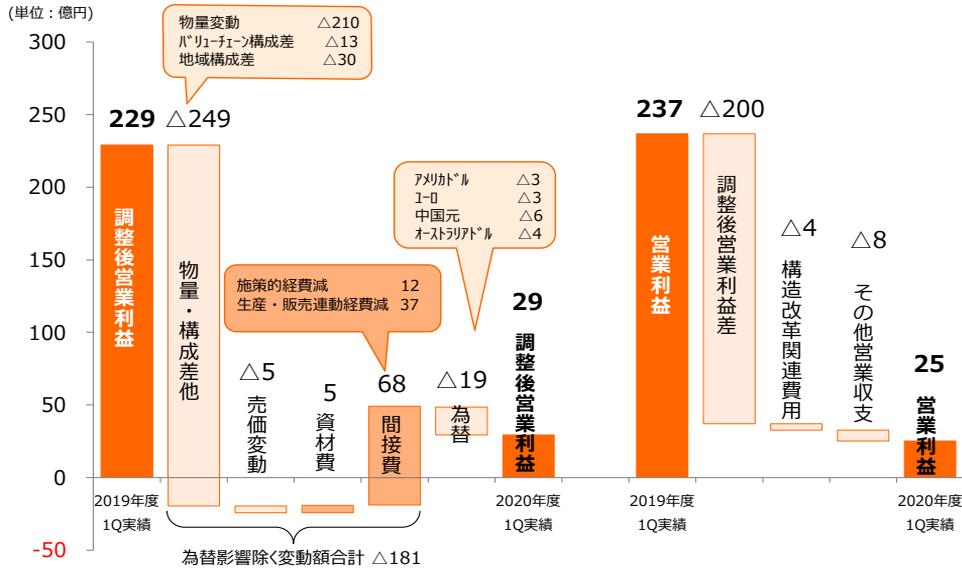
各棒グラフの上段から2段目、グレー色のレンタル事業は、これまでの施策の効果により、前年同期比で10%の増収となりました。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、COVID-19影響含め物量・構成差減、売価ダウン及び為替円高影響等により、間接費低減及び資材費低減はあるも前年同期比で200億円の減益



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 22

20年度 第1四半期の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年同期比200億円の減益を余儀なくされた要因です。

新型コロナウイルスについては、当年度 第1四半期に入っても影響が大きく、全世界で深刻な需要減退に見舞われ、これまでご説明致しました通り、大幅な減収を余儀なくされたことから、物量・構成差で249億円もの減益要因となりました。

新型コロナウイルスの影響を含む 大幅な減収に対応して、生産・販売 連動経費を主体に間接費を68億円縮減しましたが、為替円高影響19億円も加わり、調整後営業利益は、前年同期よりも200億 減少した29億円となりました。また、営業利益は、前年同期よりも212億 減少の25億円となりました。

- 販売費・管理費は366億円と前年同期比△74億円の低減
- 金融収益及び費用は△8億円と前年同期比19億円の改善

(単位：億円)

	20年度 1Q	19年度 1Q	前年同期比	
			金額	増減率
売上収益	1,702	2,347	△645	△27%
売上原価	(76.7%) 1,306	(71.5%) 1,678	△372	△22%
販売費・管理費	(21.5%) 366	(18.8%) 440	△74	△17%
調整後営業利益 *1	(1.7%) 29	(9.8%) 229	△200	△87%
その他の収益及び費用	△4	8	△12	-
営業利益	(1.5%) 25	(10.1%) 237	△212	△89%
金融収益及び費用	△8	△28	19	△70%
持分法投資損益	1	7	△6	△85%
税引前四半期利益	(1.1%) 18	(9.2%) 216	△198	△92%
法人所得税費用	6	61	△55	△90%
四半期利益	(0.7%) 12	(6.6%) 155	△143	△92%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(0.1%) 2	(5.8%) 136	△134	△99%

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 23

ここまで、売上収益から営業利益まで ご説明して参りましたので、このページでは、営業外損益以下を簡単にご説明します。

金融収益・及び費用は、主として為替差損の低減 影響により、前年同期比19億円改善となりました。

一方、持分法投資損益は前年同期比6億円の減少でした。

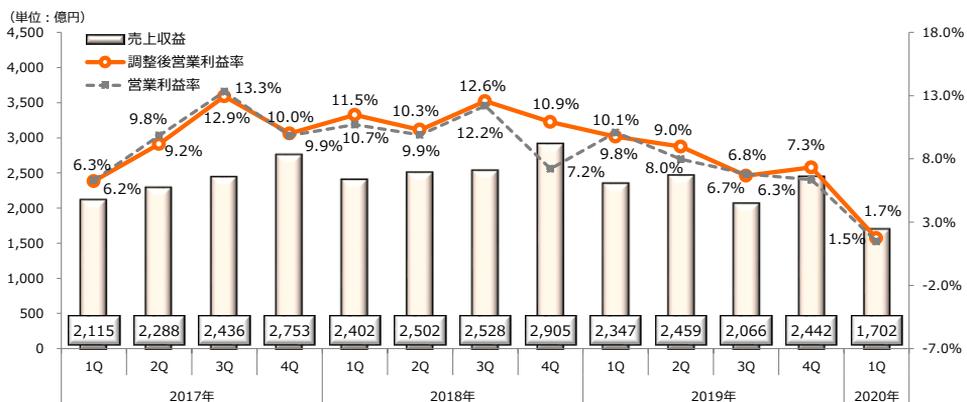
親会社株主に帰属する四半期利益は、前年同期比99%減の2億円となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions

	2017年				2018年				2019年				2020年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上収益	2,115	2,288	2,436	2,753	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702
調整後営業利益	132	210	315	275	276	258	318	317	229	221	138	179	29
営業利益	134	225	324	271	257	248	308	210	237	196	141	155	25



四半期別 為替レート	2017年				2018年				2019年				2020年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
アメリカドル	111.1	111.0	113.0	108.3	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6
ユーロ	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5
中国元	16.2	16.6	17.1	17.1	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2
オーストラリアドル	83.4	87.6	86.8	85.3	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 24

一番右側の20年度 第1四半期をご覧下さい。

当第1四半期の売上収益1,702億円は、昨19年度 第1四半期と比較すると、物量減に加えて、(表示しておりませんが、)為替円高影響85億円を含めて、645億円の大幅な減収となりました。

調整後営業利益率も、折れ線グラフに示した通りに、当第1四半期は1.7%となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable solutions

当四半期末は、営業債権を△363億円圧縮した一方、現預金積み増し等もあり、総資産は前年度末より△117億円の圧縮

		(単位：億円)							
	(A)	(B)	(C)	(A)-(B)	(D)	(E)	(F)	(D)-(E)	
	20年1Q	19年度末	19年1Q	増減	20年1Q	19年度末	19年1Q	増減	
現金及び現金同等物	710	622	565	88	営業債務及びその他債務合計	1,666	1,887	△222	
営業債権	1,762	2,125	2,216	△363	社債及び借入金	3,439	3,389	49	
棚卸資産	3,103	3,012	3,375	90	負債の部合計	6,265	6,425	△160	
流動資産合計	5,933	6,128	6,614	△195	(親会社所有者帰属持分比率)	(41.2%)	(40.6%)	(39.3%)	
非流動資産合計	5,626	5,548	5,478	78	資本の部合計	5,294	5,251	43	
資産の部合計	11,559	11,676	12,092	△117	負債・資本の部合計	11,559	11,676	△117	
非流動を含めた営業債権	2,153	2,521	2,668	△368					
棚卸資産 内訳					有利子負債計	(29.8%)	(29.0%)	(27.6%)	
本体	835	762	958	73	3,439	3,389	3,333	49	
部品	1,084	1,030	1,045	54	現金及び現金同等物	710	622	88	
その他	1,184	1,220	1,373	△36	ネット有利子	(23.6%)	(23.7%)	(22.9%)	
棚卸資産計	3,103	3,012	3,375	90	負債	2,729	2,768	△39	
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.57	0.58	0.58	
営業債権 (非流動含む)	91	99	95	△8				△ 0.01	
棚卸資産	131	118	120	13					
営業債務	40	43	52	△3					
正味運転資金	178	171	160	8					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 25

20年6月末の連結貸借対照表です。

前年度末20年3月比較では、非流動を含めた営業債権が2,153億円と、368億 圧縮しました。

一方、棚卸資産は 為替変動影響が主要因にて90億の増加となった上、現預金も88億を積み増したものの、総資産は11,559億円と、前年度末よりも117億 圧縮しました。

手持日数では、営業債権を前年度末より8日短縮の91日まで縮減しましたが、一方で 棚卸資産は、13日延伸の131日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも8日延伸した178日となりました。

右側の有利子負債計は、前年度末よりも49億増加した3,439億円となりましたが、一方で現預金を88億積み増したこともあり、ネット有利子負債は39億縮減の2,729億円となりました。

資本合計は5,294億円で親会社所有者持ち分比率は41.2%で、ネットDEレシオは0.57でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

- 営業キャッシュ・フローは、運転資本の改善により前年同期比378億円増の214億円のポジティブ
- フリーキャッシュ・フローも前年同期比395億円増の122億円のポジティブに改善

(単位：億円)

	20年度 1Q		19年度 1Q		前年同期比 増減額	
四半期利益		12		155		△ 143
減価償却費	129	118	262	107	△ 133	10
売掛金及び受取手形の増減		419		64		354
棚卸資産の増減	199	△ 28	△ 227	△ 209	425	180
買掛金及び支払手形の増減		△ 192		△ 83		△ 109
その他		△ 114		△ 199		85
営業活動に関するキャッシュ・フロー		214		△ 163		378
営業キャッシュ・フロー・マージン率		12.6%		△ 7.0%		19.6%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 93		△ 110		17
フリー・キャッシュ・フロー		122		△ 273		395
財務活動に関するキャッシュ・フロー		△ 43		180		△ 223

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 26

当第1四半期累計期間の営業キャッシュ・フローは、214億円のポジティブとなり、前年同期比で378億の改善となりました。

一方、投資キャッシュ・フローでは、前年同期比17億 減の93億円の支出としたことから、フリーキャッシュ・フローは、前年同期比395億改善の122億円の収入となりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度連結売上収益はCOVID-19影響による市況の不透明感や予想為替レート円高影響
△170億円により、17%の減収、調整後営業利益は48%減益を見込む

(単位：億円)

	20年度 予想		19年度 実績	前年比	
				金額	増減率
売上収益	7,700		9,313	△ 1,613	△ 17%
	(5.2%)		(8.2%)	(△3.0%)	
調整後営業利益	400		766	△ 366	△ 48%
	(4.7%)		(7.8%)	(△3.1%)	
営業利益	360		728	△ 368	△ 51%
	(4.4%)		(7.2%)	(△2.8%)	
税引前当期利益	340		671	△ 331	△ 49%
親会社株主に帰属する 当期利益	200		412	△ 212	△ 51%
EBIT	376		716	△ 340	
通貨	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想	19年度 実績	前年比
アメリカドル	107.6	105.0	105.6	108.7	△ 3.1
ユーロ	118.5	120.0	119.8	120.8	△ 1.1
中国元	15.2	15.0	15.1	15.7	△ 0.6
オーストラリアドル	70.7	72.0	71.7	74.1	△ 2.4
1株当たり配当金 *1	未定			60円	-

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 27

今回の20年度業績予想をご説明します。

執行役営業本部長 先崎がご説明した20年度の需要環境、並びに3か月の実績を踏まえ、現時点の今年度業績予想は、前回予想を据え置きます。

具体的には、要約連結損益計算書(予想)の通り、前回5月公表値の売上収益7,700億円、調整後営業利益400億円、親会社株主に帰属する当期利益200億円を据え置きます。

第2四半期以降の予想為替レートも変更しておりません。

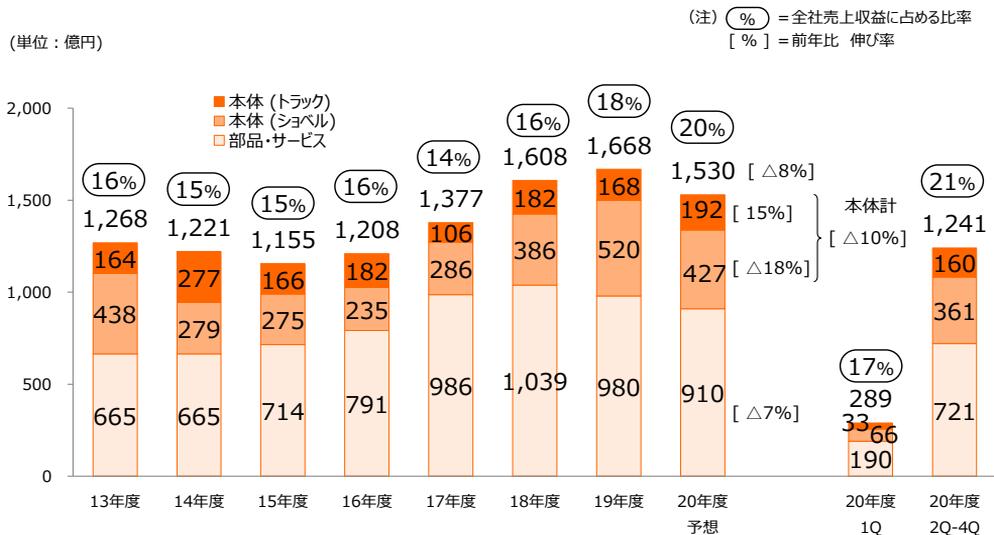
P.31に、参考資料1.として、第2四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度は、予想為替レートの高影響あるも、前年比8%減収の1,530億円を見込む



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 28

20年度のマイニング売上収益予想は、前回5月公表値を据え置き、前年比8%減収の1,530億円を見込みます。

マイニング機械本体はトラックとショベル合計で、前年比10%減収を見込む他、マイニング向け部品サービスも為替円高影響も加わり、7%の減収を見込みます。

売上構成比は、前年比2ポイント増加の20%を見込みます。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

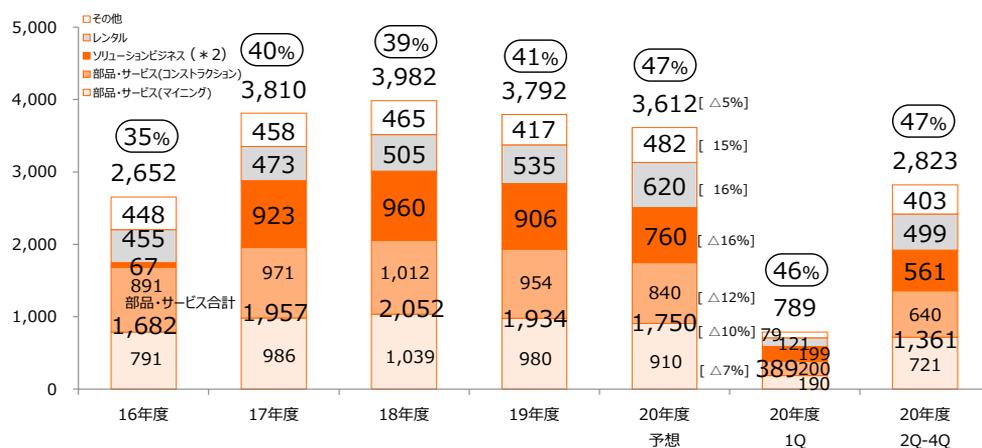
HITACHI

Reliable solutions

20年度は、レンタル、中古車等の売上増あるも、コンストラクション部品サービスのCOVID-19影響による減収及び予想為替レートの円高影響により、合計では前年比5%減収を見込む

(単位：億円)

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年比 伸び率



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 29

20年度のバリューチェーン売上収益予想も3,612億円と、前年比5%減収となる前回5月公表値を据置きます。

事業毎の内訳も同額を据え置きます。

部品サービスは、前年比10%減収の1,750億円を見込みます。

また、ソリューションビジネスも、16%減収の760億円を見込みます。

一方、レンタルは、中国、アジア、オーストラリア等での拡大を織込み、16%増加の620億円を見込みます。

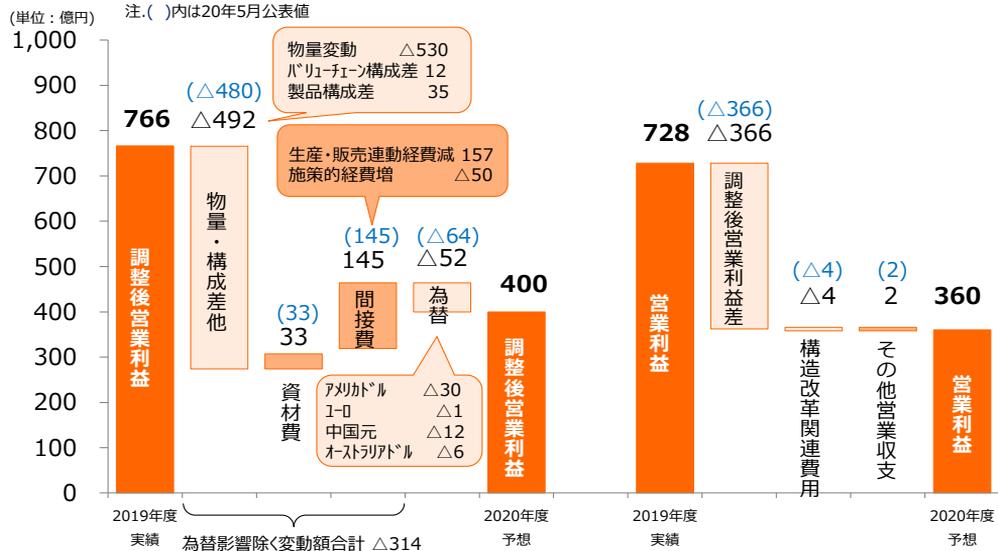
売上構成比は、前年比6ポイント増加の47%を見込みます。

連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度の調整後営業利益は、COVID-19影響による物量減や予想為替レートの円高影響により、間接費低減や資材費低減はあるも、前年比△366億円の減益を見込む



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 30

20年度調整後営業利益が 前年比で366億減少した400億円となる要因をご説明致します。

この図に示しました通り、物量の減少530億の影響が大きく、加えて、為替の円高影響52億も減益要因となりますが、一方で間接費の大幅縮減や資材費の低減で、調整後営業利益400億円の予想を据え置きます。

営業利益は、調整後営業利益の減益にて、前年比で368億の減益となる360億円の予想を据え置きます。

31ページ以降に参考資料を3枚 付けておりますのでご参照ください。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

20年度2Q-4Q予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定

(単位：億円)

通貨	為替レート				感応度(2Q-4Q累)		
	20年度			19年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	107.6	105.0	105.6	108.7	1円円安になった場合	10	8
ユーロ	118.5	120.0	119.8	120.8	1円円安になった場合	4	3
中国元	15.2	15.0	15.1	15.7	0.1円円安になった場合	4	1
オーストラリアドル	70.7	72.0	71.7	74.1	1円円安になった場合	15	2

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		19年度 1Q	20年度 1Q	前年同期比
米州	ショベル	34	32	△ 2
	トラック	13	3	△ 10
	計	47	35	△ 12
欧阿中東	ショベル	58	32	△ 26
	トラック	30	20	△ 11
	計	88	52	△ 36
アジア・大洋州	ショベル	180	119	△ 61
	トラック	60	77	17
	計	240	197	△ 43
中国	ショベル	2	2	0
	トラック	0	0	△ 0
	計	2	2	△ 0
日本	ショベル	6	3	△ 4
	トラック	0	0	0
	計	6	3	△ 3
合計	ショベル	280	189	△ 92
	トラック	103	100	△ 3
	計	384	289	△ 95

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 32

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。
20年度第1四半期実績2億円、20年度予想は12億円が含まれております。

(単位：億円)

20年度 1Q	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	1,502	204	△ 4	1,702
調整後営業利益	0.6% 10	9.7% 20	-	1.7% 29

(単位：億円)

20年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	6,940	760	0	7,700
調整後営業利益	5.1% 354	6.1% 46	-	5.2% 400

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 33

日立建機グループでは、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

END**お問い合わせ** **日立建機株式会社**

ブランド・コミュニケーション本部